

I 第34週の発生動向 (2014/8/18~8/24)

1. 伝染性紅斑については、八戸保健所管内で**警報**が発令されました。
2. ヘルパンギーナについては、弘前、上十三保健所管内で第31週より**警報**が継続しています。

II 第34週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		前週からの増減	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
小児科 内科	(90)	インフルエンザ													0				
	(79)	RSウイルス感染症	1	0.1	2	0.2							3	0.1	-1			1	0.1
	(80)	咽頭結膜熱	1	0.1	1	0.1	2	0.2	1	0.2			5	0.1	2			1	0.1
	(81)	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	1	0.1	7	0.8	18	1.8			1	0.2	28	0.7	15			1	0.1
小児科	(82)	感染性胃腸炎	22	2.8	9	1.0	15	1.5	4	0.8	2	0.3	55	1.3	32			22	2.8
	(83)	水痘	3	0.4	2	0.2					7	1.8	12	0.3	-3			3	0.4
	(84)	手足口病	3	0.4	2	0.2	2	0.2	4	0.8			11	0.3	3			3	0.4
	(85)	伝染性紅斑			4	0.4	22	2.2			11	1.8			37	0.9	23		
	(86)	突発性発しん	5	0.6	6	0.7	9	0.9	6	1.2	3	0.5	7	1.8	17			5	0.6
	(87)	百日咳													0				
	(88)	ヘルパンギーナ	41	5.1	30	3.3	35	3.5	5	1.0	24	4.0	20	5.0	-46			41	5.1
	(89)	流行性耳下腺炎	1	0.1			1	0.1					2	0.5	-2			1	0.1
	眼科	(91)	急性出血性結膜炎													0			
(92)		流行性角結膜炎	2	1.0	1	0.3	1	0.5					4	0.4	3			2	1.0
基幹	(97)	クラミジア肺炎													0				
	(98)	細菌性髄膜炎													0				
	(100)	マイコプラズマ肺炎										3	3.0	3	0.5	-3			
	(101)	無菌性髄膜炎													0				
	(82)	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)													0				

は警報、は注意報。「空欄」:患者発生無し。

III 全数把握疾患 (掲載数は最新情報)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 東地方+青森市2人、弘前2人、八戸6人、五所川原1人 (2014年計:228人)
- (15) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 上十三1人、八戸1人 (2014年計:11人)
- (67) 後天性免疫不全症候群(五類全数把握疾患): 上十三1人 (2014年計:3人)

IV 病原体検出情報 検出情報はありませんでした。

感染症の窓

エボラ出血熱 (一類全数把握疾患)



エボラウイルスの電顕写真
(米国 CDC Fred Murphy 博士)

エボラ出血熱は2014年3月以降、西アフリカのギニア、シエラレオネ及びリベリアを中心に流行しているエボラウイルスによる熱性疾患です。近年では国際的には、エボラウイルス病 (Ebola virus disease:EVD) と呼称されることが多いです。世界保健機関 (WHO) の情報(2014年8月22日付け公表)によりますと、ギニアで臨床的に患者とされた累計症例数は607例(うち死亡406例)、リベリアでは1,082例(同624例)、ナイジェリアでは16例(同5例)、シエラレオネでは910例(同392例)と報告されています。1970年代以降、中央アフリカ諸国でしばしば流行が確認されていますが、西アフリカでの流行が確認されたのは今回が初めてです。感染すると2~21日(平均約1週間)の潜伏期間を経て、発熱、頭痛、下痢、筋肉痛、吐血、下血などのインフルエンザ、チフス、赤痢等と似た症状を示します。自然宿主として、オオコウモリ科のオオコウモリの複数種が考えられています。

今回の流行では、EVDの大部分の症例は、家庭内や診療所、病院、葬儀で適切な感染防御や制御の方法をとらなかったことから起こっています。EVDと確定した人やEVDで亡くなった人の体液(嘔吐物、下痢、痰、血液など)と接触した結果、感染するものであり、インフルエンザなどとは異なり空気感染はしません。

現在、国内での発生はありません。また、主として患者に直接接触することにより感染すること、流行地域はアフリカに限定されていることから、国内での流行の可能性は現時点ではほとんどありません。

現時点で承認されたワクチンや治療薬はありませんが、研究段階にあるいくつかの薬剤は西アフリカでの発生を受けて、承認前のヒトへの投与について検討がなされています。

なお、厚生労働省のホームページでは**エボラ出血熱に関するQ&A**を掲載しています。

(http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou9/ebola_qa.html)

V 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2014年第18週～第34週）

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
18	H26.4.28 ~ H26.5.4			急性脳炎1人 梅毒1人			
19	H26.5.5 ~ H26.5.11			アメーバ赤痢1人		後天性免疫不全症候群1人	
20	H26.5.12 ~ H26.5.18		つつが虫病1人	アメーバ赤痢1人			
21	H26.5.19 ~ H26.5.25	侵襲性肺炎球菌感染症1人		梅毒1人			
22	H26.5.26 ~ H26.6.1	つつが虫病1人	後天性免疫不全症候群1人	破傷風1人			
23	H26.6.2 ~ H26.6.8		侵襲性肺炎球菌感染症1人	つつが虫病1人 レジオネラ症1人	つつが虫病1人		
24	H26.6.9 ~ H26.6.15	つつが虫病1人		E型肝炎1人 つつが虫病2人			
25	H26.6.16 ~ H26.6.22			アメーバ赤痢1人 侵襲性肺炎球菌感染症1人		つつが虫病1人	
26	H26.6.23 ~ H26.6.29	つつが虫病1人					
27	H26.6.30 ~ H26.7.6		侵襲性インフルエンザ菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人 つつが虫病1人		
28	H26.7.7 ~ H26.7.13			腸管出血性大腸菌感染症1人			
29	H26.7.14 ~ H26.7.20	A型肝炎1人 クロイツフェルト・ヤコブ病1人	E型肝炎1人				
30	H26.7.21 ~ H26.7.27						
31	H26.7.28 ~ H26.8.3	梅毒1人		腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症2人	
32	H26.8.4 ~ H26.8.10	レジオネラ症1人					
33	H26.8.11 ~ H26.8.17	腸管出血性大腸菌感染症4人					
34	H26.8.18 ~ H26.8.24			腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人 後天性免疫不全症候群1人	

VI 結核(二類全数把握疾患) (2014年第24週～第34週)

単位：人

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
24	H26.6.9 ~ H26.6.15	1	1	4	1	2	
25	H26.6.16 ~ H26.6.22	3					
26	H26.6.23 ~ H26.6.29	2		4	1	1	
27	H26.6.30 ~ H26.7.6	2		2	1	1	
28	H26.7.7 ~ H26.7.13	2		5			
29	H26.7.14 ~ H26.7.20	1	1	4	1	1	1
30	H26.7.21 ~ H26.7.27	2	2	3	1		1
31	H26.7.28 ~ H26.8.3	3	1	7			
32	H26.8.4 ~ H26.8.10		5	4	1		
33	H26.8.11 ~ H26.8.17		1	4		2	
34	H26.8.18 ~ H26.8.24	2	2	6	1		

VII 全数把握疾患発生状況(全国-青森県)

(注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国

(2014年第1週～第32週累計)

分類	二類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコクス症	オウム病	回熱	Q熱	コクサツオイツチス症	重症熱性血小板減少症候群	チンングニア熱	つつが虫病	テング熱	日本紅斑熱	ブルセラ症	ボツリヌス症	マリア	ライム病	
累積報告数	15412	3	63	2109	23	10	95	384	12	7	1	1	1	41	7	108	96	95	9	1	35	7	
分類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	
疾病名	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	パルモマイコン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん				
累積報告数	692	11	683	155	291	80	101	165	904	39	123	23	1194	8	980	80	32	260	426				

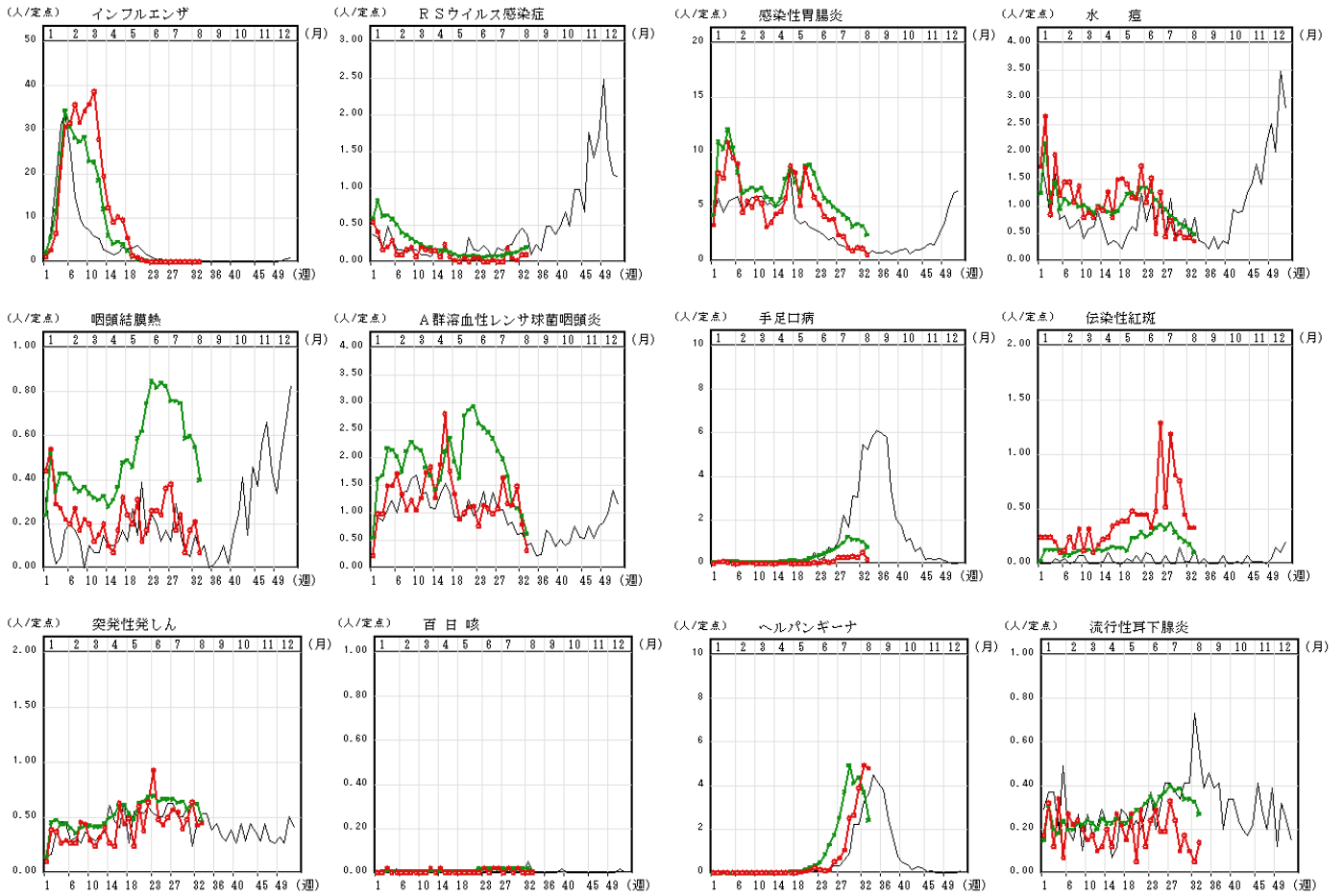
青森県

(2014年第1週～8月25日16:30累計)

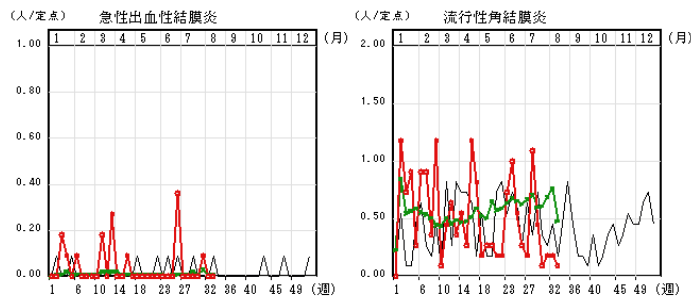
分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒	破傷風						
累積報告数	228	11	2	2	10	3	6	8	1	1	3	1	6	4	1						

VIII インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2014年第33週)

グラフの説明 ○—○は2014年青森県、——は2013年青森県、 ×—×は2014年全国



IX 眼科定点把握疾患週別推移 (2014年第33週)



X 基幹定点把握疾患週別推移 (2014年第33週)

